

学校名	北海道札幌北陵高等学校
-----	-------------

学校関係者	
学校評議員	5名

1 学校教育目標

1 自己を開く	2 知を啓く	3 未来を拓く
---------	--------	---------

めざす姿

1 他者の考えにふれ、自分を成長させようとする姿勢
2 先人の知に学び、視野をひろげようとする姿勢
3 新時代の担い手としての使命を探り、社会に貢献しようとする姿勢

育成めざす資質能力

「傾聴力・発進力・協働力」「課題発見力・計画力・実行力」「主体性・社会性・創造性」

2 年度の重点目標

生徒一人一人の特性に応じた指導と社会に関わられた教育課程の実践。

3 経営方針

(1) 社会の変化に即し個々の生徒の特性に応じた教育課程の編成・実施。
(2) 生命の尊厳と多様性の尊重に基づく、自己の可能性を高める人間力の育成。
(3) 生徒一人一人に目を向けたキャリア教育ときめ細かな進路指導の充実。
(4) 心身の健康増進及び美化意識、安全意識の醸成。
(5) 学校運営上の問題点に対し、常時、点検・情報収集を全教職員で実施する体制づくり。

4 自己評価結果

評価基準【A：達成している（85%以上） B：おおむね達成（70%以上） C：やや不十分である（50%以上） D：不十分である（50%以下）】

5 学校関係者評価

(1) 自己評価の適切さ

評価基準【A 適切な評価である B ほぼ適切な評価である C やや不適切な評価である D 不適切な評価である】

(2) 改善に向けた取組の適切さ

評価基準【A 十分な効果が期待できる B ほぼ十分な効果が期待できる C あまり効果が期待できない D 全く効果は期待できない】

領域	重点事項	評価の観点	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善・充実の方策	(1)自己評価の適切さ	(2)改善に向けた取組の適切さ
I 学習指導	① 生徒の多様性に配慮した学習支援の確立及び学習環境の整備。	□特別な配慮が必要な生徒、長期欠席の兆候がある生徒に対し、教育活動支援委員会等による常時アセスメント機能により、個別最適な学習方法を提供し、履修と修得を認定する方法を実践できたか。	A	○教育活動支援委員会を毎月開催し、学年・教務Gとの連携により、配慮が必要な生徒及び長期欠席生徒への学びのサポートを実現することができた。今後も生徒の多様性に配慮した学習支援体制を充実させる。	B	B
	② 地域の教育力を活用した知的好奇心の喚起と学び力の育成。	□近隣他校にはない新たな外部関係者を活用した総合的な探究活動の創造ができたか。	C	○組織的な外部関係者の活用には至っていないが、他校での実践例や先駆的な教員の実践事例を参考に探究活動を充実させる体制を構築する。		
	③ 社会に必要な資質・能力を育む学習指導。	□育成を目指す9つの資質・能力を教科等横断的に身につけさせることができたか。	B	○9つの資質・能力を意識した授業や探究学習の質的な向上を図るために、校内研修や教科内研修を充実させ、教員のファシリテート力の向上、生徒の可能性を最大限に引き出す指導の充実を図る。		
	④ 学習意欲を高め、興味・関心を広げるカリキュラム・マネジメントの充実。	□指導と評価の一体化を進め、生徒の学習改善、教員の指導改善に繋がるものとなったか。	B	○カリキュラム・マネジメントの視点を活用し、生徒の振り返りや授業改善に繋がるよう指導と評価の一体化を進め、教育活動の質的向上を図る。		
	学校関係者の意見	・特別な配慮が必要な生徒のみならず、個人にあった学習指導に求められる対応は多岐にわたり、ご苦労も多いことと思いますが良い取組ができていますと感じます。 ・C評価になった項目（組織的な外部関係者の活用等）は、Cとなった理由を分析し、改善していくことが必要と感じます。 ・地域の教育力を活かした活動は受動的と感じます。生徒の可能性や地域の可能性を高めるためにも、生徒側（学校側）からの積極的・能動的な提案・働きかけがあると良いと思います。 ・「みらいの教員育成プログラム」では、とても貴重な経験ができていますと聞いています。教員の仕事ややりがいなどを高校段階から学ぶことで、教員志望者が増えていくことを期待します。				
II 生徒指導	① 生徒の多様性を重視した教育活動の支援の充実。	□校則の見直し、人権擁護の視点を踏まえた指導の在り方や考え方の転換ができたか。 □スクールカウンセラーと連携した教育相談の日常化と、外部専門家による教員実践研修を実施できたか。 □教員相談、生徒支援、いじめ等に関する委員会を計画的に開催することができたか。	B	○多様性を重視した生徒指導理念の実現する生徒支援のあり方を日々の指導や校内研修を通して、充実させていく。 ○様々な特性・障がいに関する知識や配慮等について正しい理解と認識を深め、一人一人を多面的・総合的に理解し、生徒に対する組織的な対応ができる体制の構築に努める。	B	B
	② 学校生活が、生徒の安心できる居場所となる。	□生徒のメンタル面の支援のために 生徒が担任以外にも相談できる校内体制を示せたか。 □図書館の探究カフェ化と生徒ホールの憩いの場所化等に向けて、現在の社会情勢に即した学校施設の新たな活用の企画・実践ができたか。 □いじめの未然防止の具体的方法＝いじめをする気をおこさないやさしい心の育成ができたか。	A	○生徒ホールや廊下へ展示を充実させ、生徒の作品の鑑賞機会や憩いのスペースを設け、学校生活に潤いを創出することができた。 ○「いじめ防止基本方針」を見直し、いじめ防止対策委員会を機能させ、いじめの予防・早期発見する組織的な体制の構築に努める。また、互いを認め合える人間関係・学校風土を構築し、いじめに至る前の人間関係から支援を行う。		
	③ 生徒の自主自律を伸張する生徒会・部活動・ボランティア活動の充実。	□認め合い、共に考え、主体的に活動する生徒会活動・部活動・ボランティア活動が実践できたか。	A	○学校行事や部活動等を通して、主体的な活動を実行する機会が増加した。部活動の全通・全国大会への出場機会の増加にも繋がっている。今後も様々な機会を通して、生徒の可能性を引き出す教育活動を推進する。		
	④ 外部機関との連携を重視した社会性を高める指導の充実。	□学校祭を一般公開し、地域の子どもの奉仕者になる活動や外部機関を取り込んだ誰もが幸せになる企画ができたか。	B	○コロナの移りに伴い、生徒が外部機関のイベントに参加する場面が増えた。今後も生徒の主体性や社会性を高める指導の充実を努める。また、学校祭の一般公開を工夫し、地域に愛される効果的な企画を検討する。		
	⑤ 持続可能な社会の形成者の組織的・継続的な育成。	□国際貢献・国際協力に関わる、計画的な取組を探究活動に導入することができたか。	B	○探究活動を充実させ、現代社会の課題を自らの問題として捉え、課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すことによって、持続可能な社会を創造していく学習者の育成を図る。		
	学校関係者の意見	・多様性の重視については、年々その必要性が高まっていると感じます。北陵高校卒業後、社会に出たときに多様性を尊重する大人・社会人となっていくことを期待します。 ・多様性を認める居場所をつくる（奪わない）ことに学校が取り組んでくださることは地域としてとても心強く感じます。 ・コロナ禍により、国際交流の機会がストップしていると感じています。持続可能な社会の形成者として、国際貢献・国際交流の取組を探究活動等で導入してみてもどうか。 ・北陵祭にPTAとして、活動させていただき、地域の方々との交流ができ嬉しく思いました。今後も地域連携を深め、地域コミュニティの拠点としての役割も期待します。				
III 進路指導	① 生徒の現状を把握し、一人一人の資質能力を高めるきめ細かな指導の充実。	□国公立大学の一般入試合格に向けた学力の定着と「みらいの教員育成プログラム」履修者の教育大札幌校一般合格に向けた学力育成指導ができたか。	A	○生徒の現状を把握し、進路Gと学年団の連携により、戦略的かつ柔軟に対応できた。「みらいの教員育成プログラム」では当初の目的は達成した。関係機関と連携を図り、教職希望者の進路実現の支援体制を構築していく。	A	A
	② 社会の変化に順応できる自己管理能力を育成する組織的・系統的な指導の充実。	□日本人の特性、パーソナリティ、探究活動を最大限に発揮できる入試戦略ができたか。	C	○生徒の自己管理能力の育成、自立した学習者となるべく支援が必要である。個別学習課題を提供するなど、個人の特性に応じた学びのデザインを支援できる体制、それに伴う情報共有・校内研修を充実させる。		
	③ 大学、社会教育機関等、外部機関、地元企業等と連携したキャリアプランニング能力を高める指導の充実。	□探究学習とキャリア教育を両立する材料を提供する社会教育機関の活用検討が実現できたか。	B	○「進学ライブ」「大学説明会WEEK」等を通して、キャリアプランニング能力を高めることができた。今後は探究学習の経験を大学での学びへと繋げていく体制の構築に努める。		
	学校関係者の意見	・大学入試が大幅に変化する中、より早い時期からの準備が求められ、進路指導も大変なことと思います。私立大学や資格取得に対応した専門学校など、多様な進路選択・選抜方法に戸惑わないよう、今後も情報収集に努めご指導いただきたいと思ひます。 ・自己管理能力の高低は個人差も大きいと思ひます。落ちこぼれる生徒・置いて行かれる生徒がでないよう、フォローアップ体制をお願いします。 ・学年が上がるにつれて、様々な受験情報の提供を受け、取組意識が高まっていると感じます。				
IV 健康・安全指導	① 自他の生命を尊重し、多様性社会をつくる視点を育む指導の充実。	□生徒情報交換会や生徒理解支援ツールを活用し、生徒の心身の健康状況を把握と支援ができたか。	A	○日々の情報交換や教育活動支援委員会を行い、生徒支援の体制を充実させる。また、あらゆる教育活動において、生命尊重と心身の健康意識を高める指導、多様性社会をつくる視点の啓蒙を継続する。	A	B
	② 望ましい生活習慣の確立を目指す健康・相談活動の充実。	□生徒の欠席状況や学校での様子について、スクールカウンセラーと連携し、教員間で情報を共有できたか。	A	○学年団と養護教諭やスクールカウンセラーの連携を密に行い、生徒の困り感やストレス等の把握に努め、相談体制・支援体制について組織的に展開していく。		
	③ 想定を超えた危機に対して一人一人が判断し、行動できる能力の育成。	□防犯・防災・交通安全に関する取組を通して、日常の様々な危険について自ら判断し、身を守る能力を高めることができたか。	C	○日常の様々な危険から身を守る能力を高めることができたが、想定を超えた危機に対して判断し、行動できる能力の育成にまで至っていない。想定外の危機に想像力を働かせ、最悪をイメージし行動できる能力の育成に努める。		
	④ 危機管理マニュアルを適切に活用できる、危機管理体制の確立。	□様々な危機に対し、教職員の当事者意識の高揚と組織的体制の構築ができたか。	B	○様々な危機に対して組織的に対応するためには、平時のコミュニケーションの機会が重要である。認める・労うなど良好な関係を築く協働体制の構築に努める。		
	⑤ 日常的な校地内環境の保全・整備と美化活動の推進。	□日常的な安全点検による保全・整備と快適な学習環境を実現するための取組や意識の高揚を図ることができたか。	B	○学校における安全教育や安全管理に努めるとともに、学校防災計画に基づき、防災リテラシーの向上と快適な学習環境の実現に努める。		
	学校関係者の意見	・コロナ禍を経て、心と体の健康について、生徒・保護者も学校も意識の変化があったのではないのでしょうか。また、新年早々の能登の地震を機に地域との防災に関わる連携も積極的に考えていただけると幸いです。 ・風雪が強い立地に考慮した臨時休校対応等、早めの判断は勇気のいることと思ひますが、生徒の安全や健康を考え適切に判断して欲しいと思ひます。 ・過去の災害から学ぶこと、日常の様々な危険から身を守る能力を高めることは必須と考えます。機を見て指導の充実を努めて欲しい。				
V 学校運営	1 分掌、学年、教職員相互のコミュニケーションを積極的にを行い、組織力を生かした学校運営を行うことができた。		C	○教職員が多数入れ替わったことで、課題を共有し、共通理解のもと組織力を活かした教育活動に繋げることができていない部分があった。今後は、コミュニケーションの機会を増やし、相互理解のもと課題解決に努めていく。	B	B
	2 学校運営上の問題点に対し、常時、点検・情報収集を全教職員で実施する体制づくりができた。		C	○教員が自分の経験に基づいた指導ができなくなる時代となっている。子どもたちと共に学び続ける教員集団を組織し、「予測困難な時代」を働きがいを持って課題解決に取り組む体制を構築していく。		
	3 北陵高校「ニコニコ大作戦～笑顔あふれる生徒と教職員～」を実現することができた。		B	○ニコニコ大作戦の理念を生徒・教職員が理解し、教育活動を進めることができた。今後は「進学してよかった学校」、「勤務してよかった学校」となるように協働体制を高めていく。		
	学校関係者の意見	・教職員の異動による現場への影響は様々な功罪があると推察いたします。目標を共有し、相互理解のもと学校課題解決に努めて欲しいと思ひます。 ・教職員の働きがいがあることでその学校だと思います。よりよい環境を築き生徒に還元していただく。 ・屯田地区の地域に見守られていると感じている生徒が増えているように思ひます。地域から選ばれる学校となり、様々な異年齢交流等を通して、幼少期からあこがれを持つような北陵高校になって欲しい。 ・保護者の立場として、子どもの様子を見て、進んで本当に良かった学校と感じています。アフターコロナでコミュニケーション機会や活動機会が増えて、さらに良くなることを期待します。				